



報道関係者各位

軽井沢現代美術館2020年の展示企画をお知らせいたします。詳しくは広報担当までお問い合わせくださいませ。

1F常設展示室 4月23日(木)～11月23日(月)

海を渡った画家たち — ART IN WONDERLAND —

【概要】

なぜだか分からないけれど、見ていてワクワクする絵。
思わず触れてみたくなるような、五感を刺激する彫刻。
本展では、こうしたアートの持つ根源的な「楽しさ」に焦点を当てます。

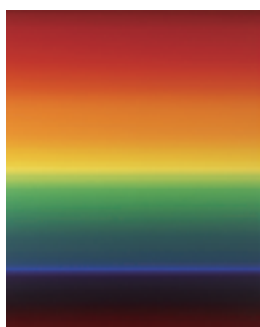
美術史を遡れば、その時間軸には幾多の巨匠たちによる挑戦と開拓の物語が刻まれています。
中でも20世紀初頭のヨーロッパにおける抽象表現の誕生は、従来の規範を大きく覆し、芸術をより自律した純粋なものへと展開させる要となりました。
当館では、西洋を中心とするこうしたモダンアートの潮流に少なからず刺激を受け、まさにその本場の地へと赴いて美術運動に生涯を捧げた画家、そして日本のアカデミズムに反旗を翻す覚悟を持って新しい芸術に取り組んだ画家たちをテーマにコレクションしています。

厳しい環境の中で生み出されたにも関わらず、作品は決して暗く重々しいものばかりではありません。
彼らの背負った時代背景や、自らの作るべきものを懸命に探し求めるエネルギーは、時に色彩に満ち、時に遊び心に溢れた作品となって、さまざまな語り口で鑑賞者へと訴えかけてくるのです。

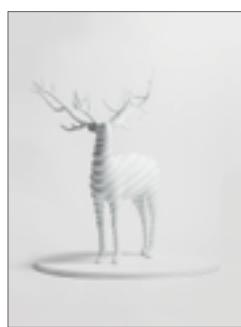
今回は、戦後から現代に至るアーティスト約17名による、たくさんの「楽しい」や「面白い」を特集いたします。
いつもとは少し違う物事の見方や、心が豊かになる感覚をご体験いただけましたら幸いです。

●出展作家

アイオー、金沢健一、木村忠太、草間彌生、桑山忠明、白髪一雄、菅井汲、高崎元尚、中辻悦子、奈良美智、名和晃平、東恩納裕一、間部学、向山喜章、村上隆、元永定正、ロッカクアヤコ (五十音順) 他



「レインボー」
キャンバスにアクリル 162.1×139.3cm
アイオー



「Trans-White Deer」
2017年 ミクストメディア 80×59.4×54.6cm
名和晃平
photo: Nobutada OMOTE | SANDWICH



「桃園」
1988年 キャンバスに油彩 97×162.1cm
白髪一雄

掲載ご希望の方は広報へお問い合わせください。

海画廊(軽井沢現代美術館 東京事務所)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1 三省堂書店神保町本店4階

TEL/FAX 03-3233-3359 E-MAIL info@umigallery.net (広報担当:稲村・丸山)



1F小展示室 4月23日(木)～11月23日(月)

草間彌生とファッション

【概要】

今を生きるトップアーティスト、草間彌生。

独創的な作品はもちろんのこと、おかつば頭に水玉の衣装を纏う自身の姿も、アイコン的なイメージとして世界中から注目を集めています。

1960年代後半にアメリカでアパレル会社を設立するなど、草間にとって「ファッション」は、ニューヨークで活動していた頃から創作における重要なファクターとして機能していました。

苛酷な海外にて日々膨らむ人種や文化の隔たりに対する葛藤、性差への潜在的な恐怖心は、衣服やバッグの表面をドットやネットが覆い、靴や日用品を無数の突起物が埋め尽くす作品となって立ち現れます。

露出した肌にボディペイントを施すヌード・パフォーマンスや、自らをモデルに撮影された写真は、身体と作品が渾然一体となった新しい前衛の在り方として、大きなセンセーションと共に人々を驚嘆させたのでした。

時を経て2000年代になると、国内外の企業からの要望が増え、コラボレーションにも携わるようになります。

ルイ・ヴィトンを始めとするハイブランドや、auの提供する携帯電話「iida」と共同で進められたプロジェクトは、唯一無二の世界観を人々のいっそう身近に周知させることに成功しました。

ニューヨーク時代に生み出されたファッションにまつわる一連の作品群は、草間の制作テーマである人間愛と平和をより広く届けることのできる新しいメディアとしていわば再解釈され、アートの教義をも問い直すものへと昇華したのです。

水玉や網目模様に託された作家の想いは、私たちが身に付け、自己表現として取り入れることで、これからも反復・増殖を繰り返すことでしょう。

網目が描かれたスカートや突起物が入ったセラミック・シューズを中心に、ニューヨーク時代の貴重な写真資料など、多岐に渡るファッションの世界をご高覧くださいませ。

●出展作家

草間彌生、細江英公、松本路子



「無題」
1968年頃 布(スカート)に油彩 49×61cm
草間彌生



「Ceramic Shoes」
2013年 セラミック ed.30 約22.5×8×16.2cm
草間彌生



2F企画展示室

4月23日(木)～11月23日(月)

青木野枝展

【概要】

80年代の活動当初から鉄という素材に魅了され、工業用の鉄板をパーツに溶断し、溶接して組み上げるシンプルな作業を繰り返し作品を制作する青木野枝。

青木の手が関わる事でそれらは素材本来の硬質感や重量感から解放され、作品の置かれた空間を劇的に変化させます。

近年は石鹸、石膏、ガラスなど異素材の作品も発表。

また1997年より銅版、木版、紙版など様々な版画を継続して出版。

今回の展覧会では、彫刻作品、平面作品を同時に展示致します。

作家の持つイメージが形になっていくさまを、ぜひご高覧ください。

●出展作家

青木野枝

青木野枝 Noe AOKI

1958年 東京に生まれる

1983年 武蔵野美術大学大学院造形研究科(彫刻コース)修了

<受賞歴>

1997年 第9回倫雅美術奨励賞(創作部門)受賞

2000年 平成11年度(第50回)芸術選奨文部大臣新人賞受賞

2014年 第55回毎日芸術賞受賞

2017年 第40回中原悌二郎賞受賞



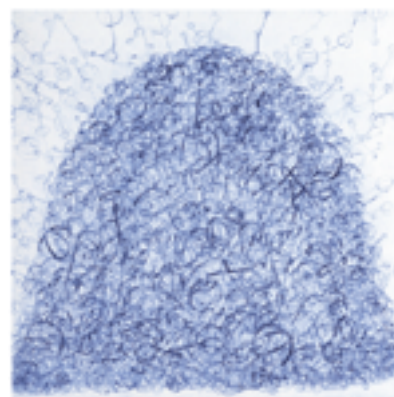
撮影: 砺波周平 courtesy of ANOMALY



「霧と山」
2019年 鉄 206×109×102cm
青木野枝



「立山 2」
2019年 鉄、ブロンズ 142×30×26cm
青木野枝



「ひかりのやま 1」
2019年 ドライポイント ed.20 55.5×52.5cm
青木野枝